

2008 年度事業計画

<2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日>

I. 中期方針における 2008 年度の位置づけ

<ESD-J の設立趣旨>

ESD-J は、政府・地方自治体・企業・教育関連機関に対して対等な立場で政策提言および協働・連携による活動を行う事により、持続可能な社会の実現に向けた教育（ESD）の推進に寄与する事を目的として設立された、NGO・NPO・個人によるネットワーク組織である。

ESD の内容に関しては、環境教育や開発教育、人権教育、平和教育など、これまで多くのノウハウが蓄積されてきているが、ESD はこれらの教育活動がより有機的につながりながら、学校教育や社会教育などさまざまな学びの場に広がり、持続可能な地域づくり、社会づくりに発展していくことで実現できると考える。そしてそのためには、国際レベルおよび国レベル、地域レベルで、人と人をつなぎ、活動と学びをつなぎ、実践と制度をつないでいく「仕組みづくり」が重要である。ESD-J は「ESD の 10 年」で、その仕組みをさまざまな関係者と共に模索し、実現することを目指している。

<第一期（2003-2005）の目標と成果>

設立年である 2003 年度から 2005 年度にかけての三年間は、ESD を推進するための基盤整備を行なう期間と位置づけ、民間レベルでの ESD に関する情報発信の基盤と、国内外の担い手のネットワーク構築に取り組んできた。また、政府に対しては ESD 推進体制の構築（ESD 推進本部と円卓会議の設置）と実施計画の策定に関する政策提言を行ってきた。

その結果、政府は 2005 年 12 月に関係省庁連絡会議を発足、2006 年 3 月に「わが国における ESD の 10 年実施計画」が確定した。

また全国各地、多様なテーマ、多様な立場の組織（約 100 団体）・個人（約 250 名）が参画するネットワーク組織を作ることができた。

<第二期（2006-2008）の目標>

ESD-J は 2006 年からの 3 年間で、国および地域レベルの「ESD 推進に必要な支援を提供できる仕組み」を模索し、そのビジョンを形成するための期間とし、国際的視点を踏まえつつ以下の方針で事業に取り組むこととした。

- ① 政府による国内実施計画の実効性を担保するために各ステークホルダーと連携しながら、より良い国レベルの推進体制を提案・創造する
- ② 地域の先進事例からの学びを通じて、「ESD を推進する地域の仕組み」のモデルを地域と共に模索・創造する
- ③ 地域の取り組み段階に応じた支援メニューを開発・提供しつつ、全国レベルでの「ESD 推進の仕組み」を提案し実現に努める
- ④ 「ESD を推進する仕組み」に必要な人材の養成に取り組む
- ⑤ 教育の担い手に対し、ESD への理解を広める
- ⑥ ESD の推進につながるあらゆる事業を、さまざまなテーマで活動する NPO をはじめ、行政・企業・教育機関など、多様な主体との対話や協働を通して実施する

2007 年までの成果は、事業報告のとおりである。

<2008 年度（第二期 3 年目）の活動方針>

第二期 3 年目となる 2008 年は、これまでの活動の成果やネットワークを生かしつつ、提言をとりまと

めることを最重要課題とし、国内外において「ESD 実践の理論化」「ESD 推進のための仕組み」の提案づくりに取り組む。

国内においては、これまで実施してきた各地での地域ミーティングや事業の中で指摘されてきた ESD 推進の課題や ESD への期待をベースに、ESD の 10 年で目指すべき ESD-J の目標を明示し、国内外の ESD 実践事例、プロセス抽出の成果などを参考に、目標達成に必要な政策や取り組みを明らかにしていく。また、ESD 推進に有効な視点やノウハウ、ツールなどをとりまとめ、『地域の ESD 実践ハンドブック』を発行する。国際的には AGEPP の収集事例をベースに、アジアからの ESD 発信のための書籍を日本語と英語で発行するとともに、ESD の 10 年中間年国際会合 (at ボン) に向けた我が国からのメッセージを取りまとめる。なお、実践ハンドブックおよび提言作りに関しては、そのプロセスに会員や全国各地の方が参画するためのワークショップを、各地で開催する。

組織体制としては、理事を 20 名から 12 名に減員し、理事相互のコミュニケーションを密にすることで、理事の組織運営への参画度を高める。また、2007 年度の事務局体制を維持、より効果的な運営を目指し、理事との連携・協力のあり方、会員の参画の場の持ち方、ボランティアやインターンシップの活躍の場作りなどに取り組むことによって、基盤の強化に努めることとする。

II 2008 年度事業計画

1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

【ミッション】 地域（市・町・村・県・ブロック）で ESD 推進の仕組みづくりのサポートをする

【2008 年度の目標】

- ・これまで収集した事例、共同実施した事業などから、地域で ESD に取り組むときに役立つ考え方・ノウハウ・ツールなどをとりまとめ、提供すること及びその作成プロセスに地域の ESD の担い手の参画を促すことによって ESD 推進に貢献する。
- ・自治体が ESD に取り組むよう具体的な働きかけを進める。

【事業内容】

1) 『地域の ESD 実践ハンドブック』作成

これまで収集した事例、共同実施した事業などから、ESD の内容、仕組み、プロセス、担い手等を抽出し、ESD に取り組むときに役立つノウハウ・考え方・ツールなどをとりまとめ『地域の ESD 実践ハンドブック』(A5 サイズ、100 ページ、500 部)を作成・発行する。

また、ハンドブックの内容を充実するために、テーマ別研究会や地域ワークショップ (5ヶ所程度)を開催し、会員や地域の実践者との対話を強化する。

2) 環境省 ESD 促進事業

14 のモデル地域の取り組みをもとに、ESD の特徴的なプログラム、ESD を推進する仕組み、そのノウハウ、地域の ESD を支援する施策等を抽出し、「地域の ESD 推進のヒント集」作成する。

3) ESD 全国研究集会 (全国ミーティング) の開催

ESD の今を共有し、これからの議論する場及びこれまでの ESD 実践の理論化・政策化を研究し深める場として、2009 年 2 月頃、2 日間、東京にて開催する。

4) 自治体における ESD 推進 (再掲: 研修)

安城市の「環境首都安城プロジェクト」、愛媛県内子町の姉妹都市をベースとした ESD への取り組み、沖縄県やんばる (国頭・大宜味・東) における持続可能な地域づくりにむけた研修事業などに協力しつつ、自治体が主体的に進める ESD の在り方を探る。

2. 政策提言および調査研究事業

【ミッション】 政府、地方自治体、国際機関等を通じて、ESD を推進する仕組みを作る

【2008 年度の目標】

- ・ ESD-J が目指す ESD の 10 年の達成目標の明確化と、それを実現するための取り組み、仕組み、施策、スケジュール等の策定
- ・ G8 サミットや ESD の 10 年中間年国際会合（ボン）に向けての政策提言の策定と発信
- ・ 日本の ESD の取り組み状況の把握と分析（国際的な取り組み状況なども踏まえて分析）
- ・ 2010 年の国内実施計画見直しに向け、政府の ESD の取り組み強化と、官民および学社連携による ESD の推進強化のための政策の提言
- ・ ESD の政策の実効性を高めていくためのネットワークづくり

【事業内容】

- 1) ESD 推進のための政策提言の取りまとめ
ESD-J が目指す ESD の 10 年の達成目標の明確化と、それを実現するための取り組み、仕組み、施策、スケジュール等を策定する。
- 2) G8 に向けた提言活動
G8 サミットに向けて、持続可能な社会づくりへの各国のコミットメントと ESD への取り組みを促す提言を作成、社会へアピールする。
- 3) ESD の 10 年中間年国際会合に向けた提言活動（再掲：国際）
AGEPP 報告書、G8 サミットへの提言、国内優良事例の整理等を踏まえ、「ジャパンレポート」を作成し、ESD の 10 年後期に向けた具体的な政策の提言を国際社会へアピールする。
- 4) 2010 年の国内実施計画見直しに向けた提言活動
円卓会議や各省への働きかけ（政策提言）を通して、2010 年の国内実施計画見直しに向け、政府の ESD の取り組み強化と、官民および学社連携による ESD の推進強化を図る。
- 5) 国会議員との勉強会の実施
議員連盟や野党議員との勉強会を行い、国会議員との連携（働きかけ）を通して、国政の ESD 推進強化を図る。

3. 研修および普及啓発事業

【ミッション】 ESD の理解推進、地域での活動をひろげ、つなぐための研修および啓発事業を行う

【2008 年度の目標】

- ・ 自治体、企業、大学等と協働で、ESD 研修を開発・モデル実施する
- ・ ファシリテーターやコーディネーターなど、ESD の担い手の整理と、その育成方法について検討する

【事業内容】

- 1) 自治体における ESD や持続可能な地域づくりに向けた研修の開発・実施（再掲：地域）
安城市の「環境首都安城プロジェクト」、愛媛県内子町の姉妹都市をベースとした ESD への取り組み、沖縄県やんばる（国頭・大宜味・東）における持続可能な地域づくりにむけた研修事業などに協力しつつ、自治体が主体的に進める ESD の在り方を探る。
- 2) 企業向け CSR 研修の開発・実施
日本能率協会、NTT グループ等との協働による CSR 研修を開発・実施しつつ、企業における ESD の在り方を探る。
- 3) ESD の担い手の整理、それを支える仕組みや育成方法の調査と検討（連携：地域）
「地域の ESD 実践ハンドブック」の検討の中で意見や情報を整理し、とりまとめるとともに、

- 事業企画・実施に向けた資金調達を検討する。
- 4) インターンおよびボランティアによる ESD カフェの開催
 - 5) 出前講座・研修・ワークショップの開催

4. 情報収集・提供および出版事業

【ミッション】 ESD および ESD-J に関する情報の収集・発信を通じて、会員内外へ ESD および ESD-J の理解を促進し、ESD 活動の活性化を図る

【今年度の目標】

- ・地域リポーター制度、環境 goo との連携事業等を通して情報収集・発信体制の強化、情報ソースの多様化を実現する
- ・ウェブサイトによる情報提供の強化につとめ、年間アクセス数を 48 万ページビューから 60 万ページビューに増やすことを目指す
- ・メールマガジンの発行やウェブの強化を通して、会員外への情報発信の質と量を高めることで、ESD-J の社会的な存在価値を高め、ネットワーク基盤を強化することに努める
- ・地域 PT・国際 PT・研修 PT と連動し、それぞれの成果をハンドブックやブックレットの形態で発行し、ESD の取り組みの周知・促進に努める

【事業内容】

- 1) ウェブページの充実
- 2) メールマガジンの充実
- 3) 「ESD レポート」の継続発行（季刊、A4 版、8 ページ、各 6000 部）
- 4) 「ESD-J2008 活動報告書」の発行
- 5) 『地域の ESD 実践ハンドブック』をベースとしたテキストブック②の発行（再掲：地域）
- 6) 「市民版 ESD ジャパンレポート」発行（再掲：政策、国際）

5. 国際ネットワーク推進事業

【ミッション】 ESD に関する情報の国際的な受発信の窓口となり、ESD を推進する国際的な NGO ネットワーク（特にアジア太平洋地域を中心として）の形成と促進を図る

【2008 年度の目標】

- ・アジア 6 カ国語 web サイトを完成し、今後継続的にアジアで ESD に実践を共有できる仕組みを作るとともに、AGEPP の成果を日英でとりまとめ発行する。
- ・ESD の 10 年中間年国際会合に向けた我が国からのメッセージを取りまとめる
- ・AGEPP その他の国際的活動の成果を踏まえつつ、ESD-J としての国際戦略の中間見直しを行う。

【事業内容】

- 1) アジア ESD 推進事業（Asia Good ESD Practice Project : AGEPP）
2 年間で収集した各国の ESD 実践事例を 6 カ国語 web サイトで共有、また収集事例からアジアの ESD の特徴や共通性を抽出し、事例とともに紹介する書籍を日英で発行する。
- 2) 英文ウェブサイトの充実
- 3) ESD の 10 年中間年国際会合に向け報告のとりまとめ（再掲：政策）
AGEPP 報告書、G8 サミットへの提言、国内優良事例の整理等を踏まえ、「ジャパンレポート」を作成し、国際社会へアピールする。
- 4) ESD-J 国際戦略（案）のとりまとめと関連機関・組織とのコミュニケーションの緊密化
AGEPP その他の国際的活動の成果を踏まえ、ESD-J としての国際戦略の中間見直しを行い、国

連機関や ESD 推進に主要な役割をはたしている民間国際団体等とのコミュニケーションを強化する。

6. その他の事業

企業および会員団体等との協働事業の可能性を検討する。

III. 実施体制

1. 役員等

<理事>

阿部治、池田満之、大島順子、大前純一、佐藤真久、重政子、清水悟、新海洋子、杵本育生、鈴木克徳、竹内よし子、森良

<監事>

浅見哲、吉岡睦子

<顧問>

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

2. 事業実施体制

地域ネットワークの形成および交流支援事業	・・・地域PTリーダー	森良
政策提言および調査研究事業	・・・政策PTリーダー	池田満之
研修及び普及啓発事業	・・・研修PTリーダー	重政子
情報収集・提供および出版事業	・・・情報PTリーダー	清水悟
国際ネットワーク推進事業	・・・国際PTリーダー	鈴木克徳
その他の事業	・・・事務局	

4. 組織基盤強化担当

広報PTリーダー	・・・大前純一
組織運営PTリーダー	・・・重政子

5. 事務局

事務局長	村上千里
スタッフ（常勤）	佐々木雅一
（非常勤）	野口扶弥子、渡辺いずみ
（プロジェクトスタッフ）	後藤奈穂美